



ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第387号

巡礼旅行・「大村」に決定

今年11月23日に予定されている「日帰り・巡礼旅行」の候補地選びにあたって、7月21日から8月18日まで行われたアンケートにより、行く先が「長崎県・大村市」決定しました。詳細な行程はこれからです。どんなコースが選ばれるか、お楽しみに!

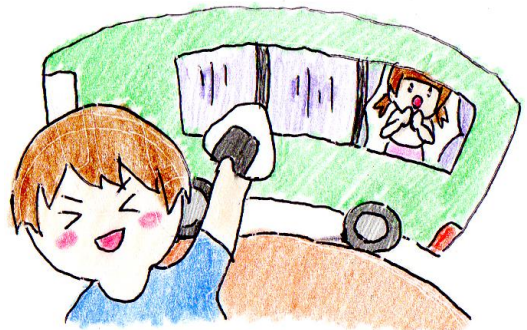
アンケートは1.長崎県大村 2.大分市、速見郡日出町 3.熊本市の3つの候補地から、巡礼したい場所に○を入れる簡単なものでした。その結果選ばれたのが「大村市」。アンケートの中で行先の例として、天正遣欧少年使節顕彰碑(森園公園)、鈴田牢などがあげられていますが、殉教の地としても名高く「大村崩れ」として多くの犠牲者が出たところです。

例えば、1957年(明暦3年)に潜伏キリシタンが発覚した放虎原殉教地、大村で、最初に殉教者を出した帯取殉教地跡などがありますし、「郡崩れ」の際、処刑された131人の首を塩漬にして、世間への見せつけにこれをさらした「獄門所」跡など数多くあります。

コース選定は、これからです。「巡礼」に参加を希望する方は宣教委員会の岩本ナセさんまで申し出て頂ければ、参考になると思います。日頃行ってみた

いと思いながらも、なかなか行く機会がなかったところかもしれません。

これを絶好の機会としてぜひ参加しましょう。バスは、大型バス定員45名、8名の補助席を予定しています。



人の喜びを自分の喜びとして・・・2面
三大宗教について書いてみて・・・3面
宗教が違う妻との結婚・・・4面
夏祭りと慰霊祭・・・4・5面
平和の集い・・・5面
教会学校より・新連載について・・・6面
幼稚園から・・・7面
お知らせ・今月の聖人・・・8面



人の喜びを自分の喜びとして

谷口 尚志 神父



先日、ある先輩司祭から「俺たちの親父（おやじ）の司祭叙階 25 周年を祝うために息子たち皆で集まらないか」との誘いがあり、親父の都合がつく日にあわせ、嬉野へ行ってきました。

神学生は大神学院に入学すると、先生たち、つまり大神学院の司祭たち（院長以外）の中から“霊的指導司祭”という、いわば司祭を目指すための相談役となる同伴者を自由に選ぶこととなります（伝統的にこの同伴者のことを“親父”と呼び、同じ“親父”を選んだ神学生同士を“息子”と呼ぶのです）。カウンセラーとは意味合いが少し異なりますが、将来の司祭像を思い描きながら送る神学院生活にあって、その神学生と同伴しながら共同生活を送る彼らの存在はとても大きいと言えます。長崎教会管区（福岡、長崎、大分、鹿児島、那覇の5教区）において、長年、サン・スルピス司祭会という司祭養成のためにはたらかれる方々のご尽力のおかげで、これまで多くの神学生が司祭となって巣立っていきました。途中、日本カトリック神学院として東京と福岡の二つの神学院があった期間も、中心となって司祭養成のためにはたらかれていたのはこの方々です。

嬉野での夕食時、親父である神父様を息子である司祭一人ひとりが囲んで楽しいひと時を過ごしながら、親父がわたしたち息子の司祭たちに話してくれた言葉が印象深く残っています。こう言ったのです。「自身の叙階 25 周年のことよりも、息子たちが叙階されたこと、また、これまで司祭として生きてくれたことが、涙が出るほど嬉しい。」と。

詩編 133 に次のようにあります。

「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び」。

司祭は神学院で共同生活を送ってきた分、どこか特別なつながりがあるのかも知れません。しかし、教会も兄弟姉妹のつながりによって成り立っています。同じ信仰に基づき、共に主イエスのうちにあって過ごしているからです。人の喜びを自分の喜びとして受け止める。なんという恵み、なんという喜びなのでしょう。その喜びに逆に元気づけられた嬉野でのひと時でした。

三大宗教について書いてみて

昨年から、私が見聞してきたものを中心に世界の三大宗教について書いてみました。

仏教については日本のお寺の状態より、発祥の地のインドから伝来した歴史が新しく、私が見てきて信徒の姿に感銘を受けたチベット仏教を中心に書きました。

イスラム教についてはなかなか難しかったのですが、いくつかの参考書と、それを読んだ上で見た外国のイスラム教のモスクや関連遺跡を見たこと、大学の先生たちが開催したシンポジウムや講演に何回か誘ってもらい参加して学んだこと、イスラム国の人に疑問をぶつけて聞いたことを中心に書いてみました。

ギリシャ正教についても参考書が無かったのですが、聖パウロの宣教地への旅で出会った沢山の教会のほとんどがギリシャ正教の教会でした。そこで沢山の疑問が出来たのですが、ガイドに質問したことや、教会の説明などで色々と知ることが出来ました。

この連載を続けているうちに、はたして私は本当にキリスト教徒であると自信を持って言えるのか、本当に信仰を持っているのかと自問したくなることがありました。

何年もかけて長い距離を巡礼するチベット仏教の人たちや、夕方に涼しくなると仏塔の周りを黙々と歩く老若男女の人たち、若くして仏門に入ることに疑問を持たず、むしろ生き生きとして修道僧の仲間入りをしている少年僧は、楽しそうで生きた目をしていました。彼らにとってお寺は生活の場であり、学びの場でもあるのです。

ミャンマーで訪れた仏教の神学校には若い僧たちが二千人いましたし、中国四川省のチベット仏教寺院には三千人の修行僧がいるという話を聞きました。田舎の寺でも二百人から三百人いるのが普通でした。そこで見る僧侶の姿はけっして悲壮な状態ではなくむしろ楽しそうであるのが印象に残っています。

イスラム教でも各地の大きなモスクの横には必ず神学校があります。その神学校はとても大きくて沢山の青年たちが勉強していました。その神学校は私たちが考えるほど特別なところではなく若い人が沢山いるところのように見えました。

ギリシャのアトス山の修道院とメテオラの崖の上の修道院は修道僧の交流があることは前に書きましたが、その話を聞いた時、以前は減っていた修道僧が最近増えている話を聞きました。アテネ大学の哲学科を卒業した青年の大多数は修道院に入っているそうです。

日本では、どんな宗教でも信仰することは特別なことであるように見えます。私もそうかもしれません。しかし、私が見てきたところでは信仰することは特別なことではなく、信仰と生活が結び付いていることを実感させられるところが多かったように思います。

近代的で便利な生活が進むと信仰心が薄れて行くように思います。南フランスの教会にはどこも信徒がいるようには見えず1人の司祭が10か所の教会を担当しているなどという話を聞くと、私たちの教会はどうなるのだと思うし、いずれ日本の教会もそうなるのではないかと思います。これからは生活の中に生きる信仰を追求する宗教だけが生き残る時代に入ると思います。私たちの信仰はこのままで良いのでしょうか。 (広報 岩本光弘)

宗教が違う妻との結婚

梅ノ木地区 村中 太希也

宗教が違う妻との結婚を考えた時に、信仰しているカトリック教について、どのように伝え説明する事で、理解し受け入れてもらえるのかを考えました。

私にできる事を考えた時に、今まで神父様、両親から教えてもらったこと、また黒崎教会で子供の頃の侍者をしていた話などを話そうと思いました。お付き合いの当初に、このような話をするタイミングが取れず、結婚前に話すことに戸惑いがありましたが、快く受け入れてもらえました。

その後、結婚前の勉強会で、竹森神父様より、カトリック教について妻に分かりやすくお話して頂きました。

妻より「神父様の話が面白く、どのような事をしているのか、実際に行事に参加してみて、より深く理解したい」という嬉しい言葉が聞け、興味を持ってもらえたことに安心しました。

一般的な行事でなじみもあるクリスマスのミサだと妻も参加しやすいと思ったので、一緒に参加しました。参加後妻より「みんなで楽しく聖歌を歌えて楽しかった。また参加したい」と、ここでも嬉しい言葉が聞けました。それから、元旦のミサに参加したり、少しずつではありましたが、私の宗教に対しての知識を深めようと行動してくれている姿が見られ、嬉しく思いました。

先日の「大人の日曜学校」にて谷口神父様の講話「カトリック教会における結婚とは」に参加、お話を聞くことにより、さらにより良い家庭を築いていけるよう家庭内でもキリストの教えを伝えていけたらと思います。

今、イエス・キリストの信仰のもとに、日曜日ミサに参加できるのは、妻の理解があるからです。そんな妻の宗教の教えも尊重し合い、さらに理解を深めていきたいと思っています。



夏祭りと慰霊祭

8月10日勝山公園にて夏祭りと慰霊祭がありました。この日はシオン山教会でお昼から勝山公園で配る焼肉弁当の準備が行われました。シオン山教会の大山さんが先頭に立ってごはんの焚き付けなど準備をしていました。

その後それぞれの教会や「抱樸」の方々が集まり、老若男女、出来る所からそれぞれ自由に手伝いました。作業をしながらお互いの教会の説明を行いました。(5面下に続く)



平和の集い

原爆の日を数日後に控えた8月4日、小倉教会で「北九州平和の集い」が開かれました。この日は、大人220人、子供25人、司祭9人、助祭1人、シスター2人、神学生2人と過去最大級の参加者がありました。

谷口神父様が基調講演をなさるといので、応援の意味も込めてこの日はマイクロバスを走らせました。したがって例年より、より多くの方が参加され、30名以上が平和の分かち合いを行いました。

基調講演のテーマは「私の隣人とは誰ですか、誰でも平和の作り手になれるのです」。

神父様は、「神が望む到達点としての平和」を山上の垂訓を例に「幸いなる人は神とつながっている」とし「今できる事を行う」ことが「平和」へと結びつくことを教えられました。

「使徒職活動グループ」の紹介では「多文化共生関門ネットワーク」「キリスト教者・九条の会」北九州、PAZMISTO(行橋教会バンド)の活動が報告されました。

故・李神父様の故郷、隣国の韓国と政治上、ビジネス、軍事上でおかしな関係が生じています。私たちは「神が望む到達点としての平和」を願い、今できる事、「祈り」を通じ「平和」を求めていきましょう



(4面下から続き)

私は「水巻教会は3号線からよく見えますよ。」と説明しながら、何かかとても楽しく作業が出来ました。最後に、「水巻の橋本です。今日は丁度午後が重なりましたので、お昼に出てきました。」と自己紹介をし、何か出来る事と思い、そのままの気持ちを伝えました。

慰霊祭について書くことにします。路上生活の末亡くなられた方のみ霊の安息を、みんなで心から献花をしながら祈りました。

奥田先生の話では、「路上生活者の方に声をかけると、ほっといて欲しいだの嫌がられながら、それでも根気よく説得しながら今に至っています。支援センターに入って欲しい、まだ立ち直れる」の一心で説得されているそうです。

ずいぶん減りました。そして、それぞれが力を合わせることを、勇気を出すことを、心から祈っています。一人の人間としての尊厳を失わず頑張ってもらいたいと願っています。

NPO抱樸支援

炊き出し担当

橋本富美



教会学校のページ



8月4日の平和の集いに水巻教会学校から、山田蓮君、樽角樹祈君、樽角友祈ちゃんが参加しました。

子供のひろばでは、事前に色紙に書いたみんな一人一人が思う平和についての文を、発表し模造紙に貼って行く作業をしました。

また、帰りのバスでは、芸達者な子供達の才能が開花!!ものまね、歌唱、なぞなぞと、最後まで笑いを誘って賑やかな帰路となりました。



新連載 「活水2」について

「からしだね」の初期、「活水」というシリーズを連載していた時期がありました。同じころ登場した「頑張っています」のシリーズと並んで人気の連載でした。「活水」は、読者に信仰の喜び、悩み、苦しみなど多岐にわたって、その心情を吐露してもらう企画で、多くの方に書いて頂きました。企画から30年以上が過ぎ、新たな「活水」の時期が来たと感じ「活水」を復活させようと思います。すでに数回、「活水」の前哨といえる文章を掲載しました。

新シリーズ名は「活水2」。連載にあたって、読者の皆さんに原稿をお願いすることになります。途切れぬよう、依頼されたら快くお受けいただくようお願いいたします。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 9月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

<水巻聖母幼稚園>

7月20日(土)は夏祭りが行われました。台風の影響で時間が早まりましたが、たくさんの方にお越しいただきました。「世界中の子どもたちが」と「小さな世界」の歌の披露や「パプリカ」の踊り



もお家の方やお客様たちに見ていただくことが出来ました。保護者の手作りゲームコーナーや、ウオクニ株式会社による食品コーナー、子ども達やご来園の皆様が一つになって幸せいっぱい2時間半でした。今年初めてお招きした折尾太鼓の演奏も迫力がありました。



8月の登園日は子ども達と一緒に「せんそうしない」の本を読みました。そして、世界の平和を祈りました。又、この日は同窓会も行われ、たくましく成長した多くの卒園児に会うことが出来

ました。



【交通安全教室】

9月5日(木)10:30~12:00 ※要予約

未就園児のお友達、お待ちしております。

水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559

e-mail: contactus@mizumakiseibo.ed.jp

<マリア子どもの家>

登園時から「朝から暑いですね!」の挨拶から始まり、温度計や熱中症を気にする、やたらと猛暑の日が続きます。前の畑に、キュウリやナスの生育を見に行くのもままなりません。それで、子ども達は朝のおやつが終わると毎日プールで水遊びです。それに満足すると今度は、噴水で冷たい水にかかります。マリアのテラスが出来た後作ってもらった朝顔の棚に、やっと青や薄ピンク、紫や朝顔が咲き始めました。朝顔に水をやるのは、子ども達のお仕事です。



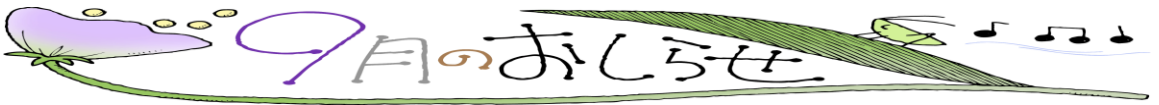
ウリやナスの生育を見に行くのもままなりません。それで、子ども達は朝のおやつが終わると毎日プールで水遊びです。それに満足すると今度は、噴水で冷たい水にかかります。マリアのテラスが出来た後作ってもらった朝顔の棚に、やっと青や薄ピンク、紫や朝顔が咲き始めました。朝顔に水をやるのは、子ども達のお仕事です。

朝顔に水をやるのは、子ども達のお仕事です。

TEL : 050 5212 7759 HP : 水巻町マリア子どもの家

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 シスター松川明子 教職員 一同



★敬老お祝い会★

日 時：9月15日(日)

場 所：水巻教会

今年も敬老のお祝い会をパーティー形式で行い、みんなで祝いしたいと思います。お手伝いできる方は、ご協力ください。

また、ミサ中に行っていた、病者の秘跡は行いません。

★ホームレス炊き出し支援★

日 時：9月13日(金) 10:00～

場 所：水巻教会 信徒会館

お手伝いできる方はご協力をお願いします。詳しいことや変更はミサ中のお知らせをお聞きください。

★ペルーからの現状報告★

日 時：9月8日(日) ミサ後

場 所：水巻教会

ペルーのイエスのカリタス修道女会のシスターが来られて、現状の報告があります。皆さんの参加をお待ちしています。

★お盆の納骨堂★

今年もお盆に納骨堂を開けました。

大塚さん・岡部さん・宗さんの三人に、納骨堂へ来る方の対応をして頂きました。ありがとうございました。来年も皆様のご協力、よろしくお祈りします。



【帰天】安らかに！

8月15日

◇水元 進さん (吉田地区)



今月の聖人 11日 福者ディエゴ司祭と殉教者たち

ポルトガルに生まれたディエゴは、17歳のときにイエズス会に入り、1609年に来日しました。天草、京都、大阪で宣教しましたが、家康の追放令でマカオに退き、再び来日して各地を回り奥州に着きました。そこでは、同会のアンジェリス司祭が熱心に宣教をされていて、互いに再会を喜び合いました。その後、日本人の司祭・修道士の応援もあり、東北を巡回し、共に宣教活動に励みました。

1624年の江戸の大殉教が終わったころ、仙台藩にもキリシタン迫害が起こりました。ディエゴは信者とともに捕えられ、仙台の信者9名とともに広瀬川で殉教しました。毎年2月、仙台の信徒たちは、殉教碑のある広瀬川の河原に集まって、殉教者たちを記念しています。



「からしだね」の由来となった聖書の箇所

マタイ13章31節、マルコ4章30節、ルカ13章18節